

当院における「安心母と子の委員会」活動の現状と課題

真田産婦人科麻酔科クリニック

- 松岡ちずよ 池田佳代 徳永和美 米原ルリ 大井手亜綾
渡辺ルリ子 酒井康子 平川万紀子 平川俊夫

【目的】

当院では平成 14 年より産褥期を中心とした妊産褥婦のメンタルサポートケアに力を入れてきた。そこに福岡市よりの「妊娠等について悩まれている方のための相談援助事業」による「子育て支援アンケート票」の導入を契機に、多職種で構成する「安心母と子の委員会」を立ち上げ総合的な支援を行っている。そこで本委員会活動の現状をまとめ、併せて子育て支援アンケート票の意義について検討した。

【方法】

平成 26 年 9 月～平成 27 年 6 月の期間に子育て支援アンケート票記入した 695 名、それ以外でスタッフにより要検討とされた 68 名を対象とし、子育て支援アンケート票、診療録、母子保健支援連絡票より情報収集した。倫理的に配慮して、個人が特定されないよう匿名化しデータ処理を行った。

【結果】

「安心母と子の委員会」で検討を要した対象は 153 名（妊婦 122 名、産婦 31 名）のうち 151 名を支援に結びつけることができた。行政への母子保健支援連絡票の提出者は 94 名で、うち妊婦 64 名、産婦 30 名であった。連絡理由は妊婦では母親の精神疾患、経済的問題、シングルマザー・未婚・連れ子のある再婚等、産婦では育児への不安、経済的問題などであった。

子育て支援アンケート票記入 695 名中、349 名（50.2%）がリスクありとされ、うち 83 名が委員会での検討を必要とした。一方リスクなしと判定された 346 名（49.8%）からは新たに産褥期に 2 名の要支援者がみられた。

【考察】

「安心母と子の委員会」は、妊産婦のメンタルヘルス支援を医院全体で組織的に取り組み、個々の事例に的確に対応する上で重要である。ハイリスク妊産婦の多くは妊娠初期からリスクが明らかであり、子育て支援アンケート票はリスク妊産婦の抽出に極めて有用で、一次介入および本委員会での検討の予備調査としても意義がある。今後は本委員会の活動を地域の精神科・小児科・行政へタイムリーに繋ぐネットワークづくりが必要である。またハイリスク妊産婦を見逃さず的確に抽出できるスタッフの判断力の向上が必要である。さらに「安心母と子の委員会」は職員の熱意と改革の意思で支えられているが、このような支援は社会福祉上重要なことでもあるので行政からの制度的支援が求められる。